



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
12/19 (月)	▲ 1,900	▲ 1,300	▲ 3,200	国庫短期証券発行・償還 (3M)	国債補充供給 + 17,900 CP等買入 ▲ 100 社債等買入 ▲ 100	国債買入 + 1,400	
12/20 (火)	▲ 4,000	+ 84,000	+ 80,000	国債大量償還・利払い、 国庫短期証券発行・償還 (1Y)	共通担保 (全) ▲ 1,451	社債等買入 + 1,000	日: 金融政策決定会合、総裁会見
12/21 (水)	▲ 4,000	▲ 9,000	▲ 13,000				米: 経常収支 (3Q) 消費者信頼感指数 (12月)
12/22 (木)	▲ 5,000	▲ 2,000	▲ 7,000	流動性供給			米: GDP (3Q) 米景気先行指標総合指数 (11月)
12/23 (金)	▲ 5,000	▲ 2,000	▲ 7,000	機関貸元利回収 (財政資金の受け)	新型コロナ企業支援 ▲ 11,924		日: 日銀金融政策決定会合議事要旨 (10月27日・28日分) 全国CPI (11月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初475兆6,100億円から始まり、その後は14日の貸出支援資金供給オペや15日の年金定時払い等により489兆600億円まで増加し越週した。無担保コールON物は週初前営業日比横ばいの▲0.077%から始まった。その後は11月積み期終盤の着地に向けた調達ニーズの強まりから同金利は上昇基調にあり、積み期最終日の15日には▲0.064%まで上昇した。12月積み期初日となる16日はビッドサイドの様子見姿勢もあり前営業日比▲0.008%の▲0.072%で越週した。ターム物は年内エントとなる1W~2W物を中心に△0.075%~△0.070%のレンジで取引された。

来週の主な予定は、国内で20日に日銀金融政策決定会合と黒田総裁の会見、23日には全国CPI (11月)、日銀金融政策決定会合議事要旨 (10月27日・28日開催分) の公表などがあり、海外では21日に米経常収支 (3Q)、消費者信頼感指数 (12月) の公表、22日に米GDP (3Q) の公表などが予定されている。

<レポ>

足許GC取引は週初▲0.085%近辺から始まり、週後半まで▲0.09%~▲0.08%の水準で推移した。積み最終日となる15日受渡しの取引や、新積み期入りする16日受渡しの取引でもレート水準に大きな変化は見られなかった。国庫短期証券3Mの入札があった週末は、▲0.07%台まで上昇した。SC取引は2年435~443回債、5年146~154回債、10年350~368回債、20年179~182回債、30年65~76回債、40年13~15回債などに引合いが多く見られた。

<CP>

今週の入札発行総額は約1兆4,000億円で、週間償還額 (約1兆1,900億円) を上回った。発行市場は、鉄鋼や電気機器、小売り等の幅広い業態での発行が見られ活況であった。発行残高は先週末時点の28兆7,394億円から15日時点で29兆677億円に増加し、過去最高残高 (29兆853億円) に迫る展開となった。原材料価格の高止まり等に加え、税支払や賞与等の資金需要の高まりを受けて発行が増加しているものと思われる。発行レートは0%から小幅なプラス圏での出合いが中心であった。

来週の週間償還額は、約1兆9,000億円となっている。発行市場は、良好なCP発行環境が継続するなか、5・10日発行も予定されており、活況なマーケットを予想する。発行レートは、発行期間や発行残高等によりやや幅の広いレンジ圏での出合いを予想する。

<TDB>

12月16日の3M (1127回債) の入札は、最高落札利回り△0.1321% (前回債△0.1582%)、平均落札利回り△0.1790% (前回債△0.1708%) となった。来週は12月19日に1Y (1128回債) の入札がある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	△0.087 ~ 0.001
1M	0.010 ~ 0.020
2M	0.010 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.130
6M	0.000 ~ 0.150

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	△0.050 ~ 0.000
CP 3M	0.000 ~ 0.005